

# 北欧の旅から(5)

## ーランドレース種豚を訪ねてー

県畜産課 多田昌男

### 26、豚の病気と予防

スウェーデンの農家組合連合の分所ともいうべきものに獣医師事務所があります。ここでの仕事は農家豚に対して指示、健康管理を行なっています。現在この国には伝染病が発生していませんので豚コレラの予防注射は禁止されています。発生した場合は日本と同様全頭と殺されます。

今から16年前に1回豚コレラが発生していますが、人も2～3週間隔離(2km)し、その他の動物は全部と殺されています。豚口蹄疫は10年前に1回、6年前に1回中部地方、1960年12月に南部に1回3ヵ所それぞれ発生しています。一昨年3ヵ所のうち1ヵ所は牛1頭でしたが、全家畜がと殺され、国が補償しています。このほかにウイルスニューモニヤ(肺ペスト?)萎縮性鼻炎、豚インフルエンザ等がありますが、伝染経路は不明です。この鼻炎の予防と発見には、と場で個々に検査されています。又一昨年は豚赤痢(スワインリセントリー)が発生しています。

以上の伝染病のうちで農家に一番被害の多いのが、流感と鼻炎ですが、両者合わせて豚全体の1%位が年間に犯されています。この2つの病気の完全な治療はないといわれ、繁殖豚は2ヵ月に1回獣医師の検査を受けています。検査は外見的に見るのみで、うたがわしいものがおれば、その群から抽出してと場で検査します。しかし後代検定所の豚については全頭検査を受け、と殺直後鼻と肺の検査を受けます。肉用としてと殺される豚も、と殺直前全頭の鼻汁検査を受けます。

#### (1) 下痢(コリバクテリア)

仔豚が生れて2～3日で原因不明の下痢をおこしますが、これは鉄分不足から起る場合が多いといわれます。昔は鉄分補給の目的でヤンスルファート(硫化鉄)を与えていましたが、これよりむしろ腐植土の方が効果があることが分り、現在は腐植土を与え

ていました。

農学校教授ミリーヌ氏は、「母豚が仔を産む時に神経質な場合、仔豚の下痢が多いようである。又夏舎外で分娩させた場合、下痢はないが、冬舎飼中に産むと母豚が神経質になりやすく下痢をまねく率が多い。これは私の経験である。普通3頭か4頭目に分娩した仔豚がこの病気で死亡するケースが多く、又圧死の原因は下痢がもとで母豚から逃げおくれた場合に多い。」と話してくれましたが、科学的根拠はないようです。

仔豚下痢の予防としては常時豚舎内を清潔にすることは勿論ですが、農家の一部では豚房の排糞場へ殺菌灯を設けて予防していましたが、日本の開放豚舎では殺菌灯の効果は疑問となります。予防は健康な飼育管理と清潔に豚舎内を保つとともに消毒が必要と思います。

下痢治療としてはサルファ剤と抗生物質を用いていましたが、サルファ剤がより効果があります。抗生物質ではオレオマイシンとテラマイシンが用いられていますが、テラマイシンの方が多く使われています。抗生物質を配合飼料中に継続して混入給与することは、バクテリア菌が抵抗力を持つようになりますからよくないそうです。仔豚にはミネラルフィードを与えるよりも、むしろ生まれた直後から土を与えた方が効果的だといわれます。

下痢止薬品として農学校で用いられていたものにサルファ剤のデメザシン(Dimezathine)注射液が最も効果があるといわれます。このバイアル入りの注射液を1～2ml(1～2cc)仔豚の筋肉内或は皮下注射しますと、下痢は4～5時間で止るといわれ、もし1回で止らない場合は更に1回同量注射すると殆ど治癒するそうです。この薬品を注射しないで下痢が自然に治った場合、生後7～8週頃にまた下痢を再発すると殆んど農学校では死亡しています。又この薬品を乳牛に使用しても効果があります。

(2) 乳房炎

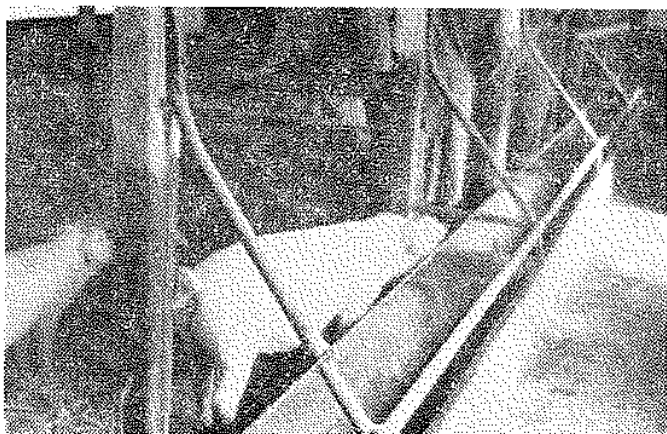
豚の分娩直後におこる乳房炎は飼料給与法の失宜が主因をなしています。つまり急激に飼料を変えるとき、分娩直後に蛋白質を多く与えた場合に乳房炎におかされやすくなります。乳房炎はサルファ剤、抗生物質などで治癒しています。

(3) 畜舎の消毒

畜舎は1房毎にその室を使用後毎に消毒するのが立前ですが、農家は病気がでないのであまり行っていないようです。畜舎の消毒は農家自身が行っていますが、農学校では豚舎を2~3ヵ月空けて、水洗後32キロ圧のコンプレッサーでソーダを溶かして洗っています。乾燥後クロロマイセチンを普通の小型消毒器を使って消毒します。

(4) 肢痛と湿疹

ランドレースには一般に肢痛はないようですが、舎内飼育のみしている場合には時にでることがあります。なお、豚の外傷は消毒器によって治療するといわれます。豚には赤い湿疹が発生する場合がありますが、昔はモーター油を用いて治していましたが、2ヵ月後にと場へ出荷する場合、油臭のため食用としてよくないので現在はスカーブシン（薬品内容不明）を用いています。



電牧利用の豚房簡易柵

(5) 膝瘤

若雄の膝に膝瘤ができるものがありますが、以前はマンガン不足からおこるものと考えられていました。しかし試験結果から床がセメント以下の硬さであればおこらないそうです。理想はレンガですが、分娩室はすべらずに簡単に起立できるようにします。

27、農学校の豚管理

(1) 飼料給与方法

国の南部にある農学校における豚の管理について農家管理を補足したいと思

います。母豚仔豚を含めて200頭、200坪以上の豚舎を35才位の男1人で管理していました。そこで3日実習しましたが、省力管理によって後代検定もよい成績をあげていました。

まず給与についてみますと、脱脂乳を1日当り仔は母豚に15立、妊娠末期豚7~8立、交配豚3立程度与えています。脱脂乳が多く入手できる12~3月頃にはと殺用豚にも2立位与えています。このほか大麦・ミネラル飼料（大麦の3%混合、このうち第二燐酸カルシウム2%、カルシウムおよび食塩を1%）を与えています。母豚にはこのほか糠を5%混与しています。又芽出しを5~7%母豚に余分に与えることもあります。

脱脂乳を与えない場合は「第7表」のような飼料を与えています。

備考  
脱脂乳を充分与えた場合は、このうちから糠、肉粉、イースト菌を除く。ミネラル中に食塩を1%含む。

(2) 初回種付と廃用時期

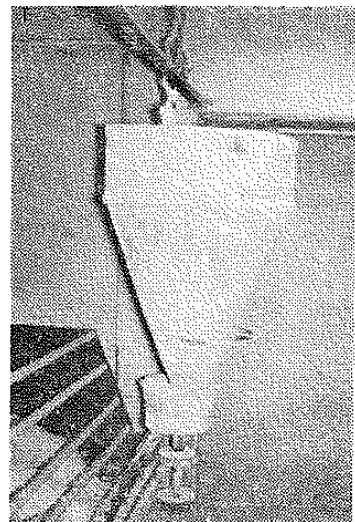
母豚を5月に舎外飼育し、この時期に交配すると、生産仔豚は不ぞろいになりやすく、又夏の終りに交配して生産したものはそろっているそうで

す。これは太陽光線になれないからだろうと話していましたが科学的根拠はありません。しかし老令母

豚と殺用	母豚用	区分	糠	肉粉	イースト菌	大麦粉	ミネラル
	5%		4		1	9	0
			4		1	9	0
							3

備考  
脱脂乳を充分与えた場合は、このうちから糠、肉粉、イースト菌を除く。ミネラル中に食塩を1%含む。

(第七表) 脱脂乳を与えない場合の飼料配合



飼料定量給餌器を移動すると下の歯車の回転により飼槽に定量飼料が入る

## 岡山畜産便り 1962.08

豚は乳量が少なく仔豚が大小ふぞろいですから使わない方がよろしい。

生後7ヵ月以後の種雌豚に交配し、1頭の母豚から5産位取った後、肉豚としてと殺場へ送っています。この見分け方は乳頭にアクチノミコーシスができる度合によります。産次が進むにつれてこれが増加し、鉄のように硬くなるといっていました。

若雄を種雄として供用するのは早いものは5ヵ月半ですが、雌と同様生後7ヵ月以降がよく、最初は1週に雌1～2頭に交配し、8ヵ月以降体重100～110kgになってから充分使うようにします。若雄を種畜として学校から払下げる場合は、最初発情の強い雌に一度種付してから行なっています。これは農家へ帰ってから下手なため雌から傷つけられないためです。又種雄のいない農家では雌が発情しにくい場合がありますが、この場合種雄豚の糞を持帰り豚舎に入れると発情しやすいとのことでした。

農学校では仔豚の去勢は生後3～5週の間に行ない、昔はクロロマイセチンで消毒していましたが、現在はスルファチアゾール粉末で消毒しています。ここでも去勢は乾いていることが条件で、切開前に消毒せず手術後消毒していますが、哺乳中の仔豚は止血していません。

### (3) ビタミン飼料と緑餌

この学校では冬期間ビタミンを与えています。トクロールというビタミンEを1日当200ccを250頭のと殺用豚に水でうすめ、脱脂乳に混与して週1回与えています。値段は1立4,200円で仔豚1頭位の代金です。Eが不足しますと肢が立たなくなります。トクロール中のVE含有量は25mgIE(1デシリットル当たり)となっています。又アデソンというビタミンA、Dを冬期与えています。これも1日当り200ccを250頭分としてクリスマス以前は夏の貯えを見越して2週に1回、それ以後週1回与えます。アデソンの内容は、次のとおりです。

ビタミンA	25,000IE/ml
//    D <sub>2</sub>	2,500    //
//    D <sub>3</sub>	2,500    //

夏期の緑餌は1日1頭当り1～2kg与え、初冬はピートトップを与え、その後赤クローバー、ルーサン、チモシー各1混播のサイレージを与えています。

### (4) 豚の払下価格

この地方では仔豚1頭当り4,200～6,300円位で取引されていますが、農学校の若豚は次の価格で払下げられています。

若種雄豚 (体重100～110kg)	35,000～49,000円
若種雌豚 (体重100～130kg)	42,000～49,000円
と殺用豚 (90kg)	20,000～21,000円

若種雌豚は生後7ヵ月で交配し、11～12ヵ月の分娩前払下し、と殺豚はと殺枝肉検定が終ってから価格が決定されます。

出荷前90kg前後の時期は1週で3kg程度増体しますので、大体的見当をつけて、と殺1週間前に出荷内訳を体重測定のうちと場へ知らせます。スウェーデンではと殺豚のうち80%が国営、20%が私営と場から市場へ出廻っています。

市場価格は米国ベーコン価格が基本になって決りますが、と殺後の重量は生時90kgで枝肉60～65kg(歩留70%以上)が最高値といわれます。

次に農家の収支ですが、飼料を自分で配合した場合、粉碎器、攪拌器を自分で持っていた場合、仔豚を5,600～6,300円と見積ると余分に700円位収益があります。仔豚を1頭売りますと労賃込みで1,000円位の純収があり、自家配合した場合、これに700円加えて、1頭当り1,700円の純収となります。

## 28、農家収入と労働賃金

スウェーデンにおける農家の総収入は金額的には不明ですが、農家総収入を100%としますと、家畜収入が75%を占め、残り25%はその他の収入となります。畜産収入のうち25%を豚、75%を牛、鶏等が占めています。

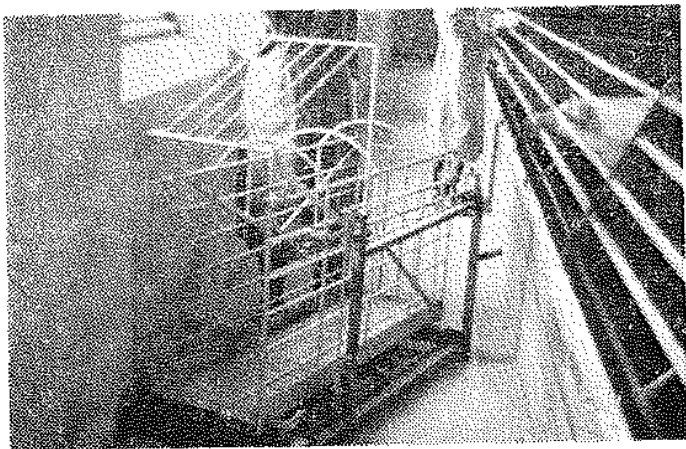
この国の農家粗収入目標は77～100万円で、工場労務者と同等に認めるべきであると議会で決議されています。1時間当りの工場賃金は315円で、1日8時間労働で2,500円位となっています。勿論技術差によって上下があります。労働者の家賃は月3,500円位です。私が案内してもらった大学卒の農家連合会技師リリエンノ氏の家賃はストックホルムの北約

## 岡山畜産便り 1962.08

20kmにあるウブサラで、3部屋、台所付 21,700 円だと話していました。もっとも大学卒の初任給は月 45,000 円位で、日本の役所の 13,500 円位の 3 倍以上となっています。

農家における熟練者は 1 ヶ月 7 万円、一般の者でも 5 万 6 千円支払われています。彼等は農場内に家を与えられ、家賃は 3,500—4,200 円で 1 ヶ月に 1 回払い、食物は自分で買って一家で生活しています。繁殖養豚農家は殆んどが家族労力で管理していますが、かなり大きい農場では人を使っています。これは養豚管理が難しいため、熟練者が必要であり、熟練者を雇うことは経営上損失であるため家族労力のみで行なう場合が多くなります。

次にスウェーデンとデンマークとの労賃についてみますと、デンマークの方が 20% 労賃が低くなっています。これはデンマークが世界第二次大戦にまきこまれたためであるといわれます。しかし税金は高く、これがため物価は日本の 1.5 倍から高いものでは 3 倍もしていました。



農家向子豚秤量器